



会報第20号発刊に寄せて

会長 K/T

私達にとって本年度最も大きな衝撃的な事は、3月11日突如発生した東日本大震災であります。それは当初、様々に呼称されていましたが、災害の規模・内容が明らかになるにつれ呼称も次々と変容し、今なお、国家的な大災害、いや世界にも大きくかかわる大災害として重くのしかかっています。

当会にとっても、そのわずか5日前の3月6日、総会をもって本年度活動のスタートを切った矢先の衝撃でした。早速、3月26日の幹事会でこのことについての協議をし、とりあえずの対応をさせて頂いたことは、「ハイク通信25号」でお知らせしたとおりです。

このような中であって、いつまでも自粛自粛というのではなく、会の活動を活発化させることが、ひいては巡り巡って世の中全体の活性化に繋がるのだと気を取り直し（国全体のムードも次第にそうなって）、その後は出来るだけ平常どおりに活動を進めて来たところです。その結果、4月9日の一斉ハイキングは、あいにくの雨天や上記のこともあってか、昨年度を下回る参加でしたが、他の月例や一般山行、奉仕活動等、いずれも前年度を上回る参加実績となり、会として喜ばしい限りでした（3月4日に発行する「ハイク通信26号」参照）。その内、会員以外も参加可の月例半日コースは、年度途中からでしたが「区だより」に参加を呼びかけたのが大変効果的となり、関係幹事の陰の力の賜とっております。

陰の力と言えば、これらの山行や各種ボランティア活動の取りまとめや推進（総務企画部）、この「山行記録」や「ハイク通信」の発行、2年目に入ったホームページの開設（広報部）、安全確保上の技術研修や（全幹事携行の）山行事故対策カード（指導部）、これら活動の土台を支える諸事務や会計処理（事務局）等々、全て各幹事・部局等の連携と、（会のなかでの）ボランティア活動の賜と受け止め、会長として厚く御礼を申し上げる次第です。

そして、全ての会員の皆さんが、各山行や活動に、これからも大いに参加し、元気なお顔を見せてくださるなら、これらの労力も報われるというものです。